

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成29年4月27日(2017.4.27)

【公開番号】特開2015-188507(P2015-188507A)

【公開日】平成27年11月2日(2015.11.2)

【年通号数】公開・登録公報2015-067

【出願番号】特願2014-66074(P2014-66074)

【国際特許分類】

A 6 3 B 69/36 (2006.01)

A 6 3 B 69/00 (2006.01)

【F I】

A 6 3 B 69/36 5 4 1 Z

A 6 3 B 69/36 5 4 1 S

A 6 3 B 69/00 C

【手続補正書】

【提出日】平成29年3月22日(2017.3.22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

被検出対象に装着された慣性センサーから出力されるスイングデータを記憶し、記憶された前記スイングデータを用いて前記被検出対象のスイングを解析し、スイング解析結果に基づいて設定される圧縮率に従って、前記スイングデータを圧縮することを特徴とするスイングデータ圧縮方法。

【請求項2】

請求項1に記載のスイングデータ圧縮方法において、前記被検出対象のスイング速度を解析し、前記スイング速度が遅い前記スイングデータの圧縮率は、前記スイング速度が速い前記スイングデータの圧縮率よりも高く設定することを特徴とするスイングデータ圧縮方法。

【請求項3】

請求項2に記載のスイングデータ圧縮方法において、前記圧縮率に従って、時系列で連続する1つのスイング中の前記スイングデータを間引いて、前記スイングデータを圧縮することを特徴とするスイングデータ圧縮方法。

【請求項4】

請求項1に記載のスイングデータ圧縮方法において、複数回のスイング中の前記被検出対象の姿勢及び位置の少なくとも一方を解析し、各回のスイングでの前記被検出対象の姿勢及び位置の少なくとも一方のばらつきが大きい前記スイングデータの圧縮率は、各回のスイングでの前記被検出対象の姿勢及び位置の少なくとも一方のばらつきが小さい前記スイングデータの圧縮率よりも高く設定することを特徴とするスイングデータ圧縮方法。

【請求項5】

請求項4に記載のスイングデータ圧縮方法において、前記圧縮率に従って、1つのスイングデータを構成する複数ビットのうち下位ビットを切り捨てて、前記スイングデータを圧縮することを特徴とするスイングデータ圧縮方法。

【請求項6】

請求項 4 または 5 に記載のスイングデータ圧縮方法において、

複数回のスイング中の前記被検出対象の姿勢及び位置の少なくとも一方の標準偏差  $\sigma$  を解析し、 $\pm 3\sigma$  または  $\pm 4\sigma$  の範囲が広い前記スイングデータの圧縮率は、 $\pm 3\sigma$  または  $\pm 4\sigma$  の範囲が狭い前記スイングデータの圧縮率よりも高く設定することを特徴とするスイングデータ圧縮方法。

【請求項 7】

被検出対象に装着された慣性センサーから出力されるスイングデータを記憶する記憶部と、

前記記憶部に記憶された前記スイングデータを用いて前記被検出対象のスイングを解析する解析部と、

スイング解析結果に基づいて設定される圧縮率に従って、前記スイングデータを圧縮する圧縮部と、

を有することを特徴とするスイングデータ圧縮装置。

【請求項 8】

被検出対象に装着された慣性センサーから出力されるスイングデータを記憶する記憶部と、

前記記憶部に記憶された前記スイングデータを用いて前記被検出対象のスイングを解析する解析部と、

スイング解析結果に基づいて設定される圧縮率に従って、前記スイングデータを圧縮する圧縮部と、

を有することを特徴とするスイング解析装置。

【請求項 9】

請求項 8 に記載のスイング解析装置において、

前記スイング解析に基づいて、前記慣性センサーで前記スイングデータをサンプリングするためのサンプリングレートを設定するサンプリングレート設定部をさらに有することを特徴とするスイング解析装置。

【請求項 10】

被検出対象に装着された慣性センサーから出力されるスイングデータを記憶する手順と、

記憶された前記スイングデータを用いて前記被検出対象のスイングを解析する手順と、

スイング解析結果に基づいて設定される圧縮率に従って、前記スイングデータを圧縮する手順と、

をコンピューターに実行させることを特徴とするスイングデータ圧縮プログラム。